

ダイバーシティクロスロード認定試験

受験の手引き

2024年版



<応募・問い合わせ先>

株式会社クオリア内 D&I 組織開発研究会

〒541-0044

大阪府大阪市中央区伏見町 3-2-6 伏見町 KYビル 10F

電話：06-6282-7400

メール：di-odc@qualia.vc

＜目次＞

1. 認定要項

- 1-1 クロスロードダイバーシティ編とは
- 1-2 認定の目的
- 1-3 応募資格
- 1-4 認定要件
- 1-5 認定をうけるメリット
- 1-6 コロナウィルス特別措置 認定ダイバーシティクロスロードの受験条件について

2. 認定を受けるには

- 2-1 認定までの流れ
- 2-2 審査内容
- 2-3 受験料

3. 試験について、よくある質問（FAQ）

- 3-1 ダイバーシティクロスロード認定試験について
- 3-2 体験会のプログラム設計について
- 3-3 体験会実施にあたって
- 3-4 実践報告書の記載において留意する点
- 3-5 審査について

1. 認定要項

1-1 クロスロードダイバーシティ編とは

クロスロードダイバーシティ編は、ダイバーシティ&インクルージョンの理解・浸透を促進するカードゲーム。多様性がある中でおきる悩み、ジレンマ、深刻になりがちな内容をゲームにすることで、楽しみながら、より深く対話を促進するツールです。（クロスロードダイバーシティ編＝クロスロード・ダイバーシティゲーム、CRDとも表記します）

「クロスロード」は、阪神・淡路大震災（1995年）後に行われた「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」（文部科学省）の成果として2003年に作成された防災ゲーム。神戸市職員に対する膨大なインタビュー調査に基づき、矢守克也氏（京都大学教授）、吉川肇子氏（慶應義塾大学教授）、網代剛氏（産業技術大学院大学教授）らによって開発されました。現在では、リスクコミュニケーションツールとして、「防災編」「感染症編」「食品安全編」「学校安全編」「心のケア編」など多くの分野で活用されています。

「クロスロード」および「CROSSROAD」はチームクロスロードの登録商標です。「クロスロード」商標登録番号第4916923号「CROSSROAD」商標登録番号第4916924号

1-2 認定の目的

クロスロードダイバーシティ編は、D&I 推進に寄与するために作成されたものです。提供するファシリテーターには、クロスロード開発の背景を理解し、ダイバーシティに関する知識やマインドセットをもって提供することが求められます。クロスロードダイバーシティ編のファシリテーターとして、自己研鑽を深めたい方、プロ講師として講座開催や組織内外への継続的な普及展開をお考えの方に、さらに活躍して頂くために「ダイバーシティクロスロード」の資格を授与するものです。

1-3 応募資格

クロスロードダイバーシティ編ファシリテーター養成講座を修了した方

※クロスロード作成部分を含む、講座全体の3/4以上を受講した方で、事務局が受験を認めた方となります。また、養成講座修了後1年を経過した方は、養成講座の再受講を要件とします。再受講にあたっては、受講料11,000円（税込）を申し受けます。

※講座修了後1年以内に、「データ申請書」を送付頂くことで応募受付と致しますので、受験まで時間がかかると思われる方は早めの送付をお勧めします。

1-4 認定要件

ダイバーシティクロスローダー資格の認定は、クロスロードダイバーシティ編ファシリテーター養成講座を受講するだけで、授与されるものではありません。別途定める認定試験に合格した方に、ダイバーシティクロスローダー資格の付与（資格認定）を致します。

* コロナウィルス特別措置 認定ダイバーシティクロスローダーの受験条件については1-6をご参照下さい。

1-5 認定を受けるメリット

認定ダイバーシティクロスローダーは次のようなことが可能となります

	ダイバーシティクロスローダー (認定試験合格者)	クロスロードダイバーシティ編 ファシリテーター (養成講座修了生)
提供資料の無償活用 (一部有料コンテンツ有)	○	○ (一部利用可)
クロスロードダイバーシティ編コミュニティへの参加	○	○
無料体験会・組織内外への無償提供が可能	○	○
スキルアップ講座、研究会など学びの場の提供	○	○
ダイバーシティクロスローダーと名乗ること	○	×
有料セミナー・WS・研修などの企画・実施	○	×
自身のコンテンツとして有料提供することが可能	○	×
当組織からの講師の斡旋を受けることが可能	○	×
公式サイトにダイバーシティクロスローダーとして掲載紹介 (任意)	○	×
公式サイトに公認公開講座の開催情報を掲載紹介 (任意)	○	×

2. 認定を受けるには

2-1 認定までの流れ

ステップ1 データの受け取り

「データ申請書」を送付し、体験会用 PDF データを受け取る
体験会の実施内容は、養成講座や送付された PDF データの内容に準じることとする。
PDF データ使用は必須ではないが、品質保持の観点から独自に作成した PPT 使用は控えることとする。



ステップ2 書類の作成

CRD 体験会を3回以上実践し「実践報告書」を作成する



ステップ3 書類の送付・受験料の納付

- (1) 応募書類一式をメールにて事務局へ送付
- (2) 受験料 33,000 円 (税込) を指定口座に納付



ステップ4 審査結果

書類・受験料の不備が無ければ応募完了。年間審査スケジュールに従い審査
審査結果をメールにてご連絡。ダイバーシティクロスローダー認定証を送付いたします

<p>ステップ1 データの受け取り</p>	<p>受験の意思のある方は、「データ申請書」をメールにてご提出下さい。 受領後速やかに以下①～④の資料を送付いたします。必要に応じてご使用下さい。</p> <p>①体験会実践用スライド（120分用） 【形式：PDF】 ②星取表ワークシート（個人用） 【形式：PDF】 ③クロスノート作成用ワークシート 【形式：PDF】 ④体験会実施スライド（PDF）使用にあたっての留意点 【形式：PDF】 ⑤実施報告書 【形式：Word】 ⑥受験申請書 【形式：Word】</p>
<p>ステップ2 書類の作成</p>	<p>CRDの体験会を3回以上実践する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施する体験会は原則として1回あたり90分以上とします。 ・必ずゲーム後の振り返りの時間を確保して下さい。 ・体験会後のアンケート実施は任意としますが、今後の参考のために実施を推奨します。 <p>* 体験会では必ず以下の点を実施して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロスロード開発の経緯と概要、ダイバーシティ編の意図紹介 ・神戸編の1つ以上の問いを使用 ・ダイバーシティ編3つ以上の問いを使用 ・ワークの振り返りを行う <p>* 養成講座で配布した紙資料は実践体験会で活用可能です。貼り付け等で利用される場合は必ず引用元を記載して下さい。</p> <p>* 各自オリジナルの資料を作成し活用・実践しても構いません。</p> <p>* 体験会は無償提供を原則としますが、会場費など必要な実費を参加者から徴収することは可能です。</p>
<p>ステップ3 (1)書類の送付</p>	<p>下記①～④を作成し、メールにて事務局へ送付します。</p> <p>①受験申請書 ②実践報告書 ③受講生アンケート集計一覧表 ※任意 ④プロフィール写真（WEB掲載を希望される方のみ）※任意</p> <p><送付物の詳細></p> <p>①受験申請書（受験者情報の記入、自筆署名の提出） ②実践報告書</p> <p>(1)ダイバーシティクロスローダーとして実践したいこと (2)実践報告書（フォーマットに基づき、3回の実践を記述したもの） * 養成講座修了後、1年以内に実践したWSやセミナー、研修に限る (3)クロスロードダイバーシティ編自作クロスノート * 1問以上作成を必須とする * 記入方法は、ファシリテーター養成講座時に配布の「クロスノート・クロスチャート作成の留意点」をご覧ください</p> <p>③アンケート（任意提出。一回以上の実施を推奨します） * アンケート用紙は、フォーマットを印刷配布する、もしくはメール添付して回収して下さい * 全員分を集計一覧にまとめたものをご提出下さい</p> <p>④プロフィール写真（任意提出。縦横600px以上の画像ファイルをご提出下さい） * クオリアの公式WEBページに認定ダイバーシティクロスローダーとしてプロフィールを掲載いたします。 * 掲載箇所：https://www.qualia.vc/crossroad-diversity/crossroader/ * 上記①②はPDFにし、下記提出メールアドレスにご提出下さい。</p>

	<p>タイトル：【ダイバーシティクロスローダー認定試験応募書類：氏名】 宛先：di-odc@qualia.vc</p>																				
ステップ 3 (2)受験料の納付	<p>①～④の送付と同時に受験料 33,000 円（税込）を指定口座に振り込んで下さい。 （振込先は 6 ページ「2 - 3 受験料」に記載） 入金を確認したのち、審査手続きに入る旨ご連絡します。 書類到着後 2 週間以内に入金を確認できない場合、応募を取り消すことがあります。 * 応募書類の内容について、メール・電話などで質問・確認することがあります。</p>																				
ステップ 4 審査結果	<p>書類到着後、所定の審査期間を経て、合否を連絡いたします。</p> <p><審査スケジュール></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>応募締切</th> <th>合否決定</th> <th>認定証発行</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 クール</td> <td>12 月末着</td> <td>2 月中旬</td> <td>2 月末</td> </tr> <tr> <td>2 クール</td> <td>3 月末着</td> <td>5 月中旬</td> <td>5 月末</td> </tr> <tr> <td>3 クール</td> <td>6 月末着</td> <td>8 月中旬</td> <td>8 月末</td> </tr> <tr> <td>4 クール</td> <td>9 月末着</td> <td>11 月中旬</td> <td>11 月末</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 合格された方には、ダイバーシティクロスローダーの認定証を発行します。 * 万一不合格の場合は、11,000 円（税込）で再受験ができます。再受験の詳細については、合否連絡時にお知らせします。</p>		応募締切	合否決定	認定証発行	1 クール	12 月末着	2 月中旬	2 月末	2 クール	3 月末着	5 月中旬	5 月末	3 クール	6 月末着	8 月中旬	8 月末	4 クール	9 月末着	11 月中旬	11 月末
	応募締切	合否決定	認定証発行																		
1 クール	12 月末着	2 月中旬	2 月末																		
2 クール	3 月末着	5 月中旬	5 月末																		
3 クール	6 月末着	8 月中旬	8 月末																		
4 クール	9 月末着	11 月中旬	11 月末																		

2 - 2 審査内容

採点を行なう上での審査項目と主なポイントは下記のとおりです。

審査項目	主な内容
応募動機	真摯に普及啓発に取り組む意思があるか
活用分野	活用対象の分野や層など具体的なイメージを持っているか
実施状況報告	プログラム設計やファシリテーターとしての関りなど、適切に実施運営していたか
実施者としての学び	実践してファシリテーターとしてどのような学びを得たか
クロスノート作成	問いの立て方は適切であったか
ダイバーシティへの理解度	D&I に対する理解は十分か
アンケートの実施（*任意）	受講生へのアンケートを実施しているか

2 - 3 受験料

33,000 円（税込）

金融機関名:三井住友銀行 備後町支店 口座番号:(普通) 1834654

口座名義:株式会社クオリア

* 応募書類送付と同時に、上記口座にお振込み下さい。弊社にて入金を確認したのち、審査に入ります。

3. 試験について、よくある質問 (FAQ)

3-1 ダイバーシティクロスローダー認定試験について				
試験内容はどのようなものか	3 回の体験会実践レポートと全体報告書及びクロスノート・クロスチャートの作成を通して、ダイバーシティ編を提供するに足る経験と知見を有することを審査します。面接や実践ロールプレイなどは行いません。			
合否基準は何か	クロスロードダイバーシティ編を継続的に活用し普及に取り組む意思と意欲のある方を、認定するものです。特に体験会中の参加者の変容についての観察やファシリテーターとしての自分の関わり方、終了後の振り返りからの学びを重視しています。審査項目や詳しい基準については、後述します。			
認定を受けないとダイバーシティクロスローダーは名乗れないのか	試験合格後にダイバーシティクロスローダーと名乗ることが可能となります。養成講座修了生は、修了生と名乗っていただくようお願いします。			
資格更新などはあるか	現時点では更新は必要ありません。			
合否結果はいつまでに届くのか	・現在以下のように、年 4 回の応募締め切り期間を定めています。			
		応募締切	合否決定連絡	認定証発行
	1 クール	12 月末着	2 月中旬	2 月末
	2 クール	3 月末着	5 月中旬	5 月末
	3 クール	6 月末着	8 月中旬	8 月末
	4 クール	9 月末着	11 月中旬	11 月末
	※書類不備があった場合、差戻しをする場合があります。再度受理した日が受付日となりますので、締め切り直前の応募はご注意ください。また、年末年始その他お盆期間前後の締め切りは変動がありますので、ご注意ください。			
応募締め切りに間に合わない場合どうなるか	送信時間表記が、各クール当該日の 24 時までの受付となっています。何らかの理由で締め切り翌日発信となった場合は、猶予期間として翌日 12 時まで受け付けます。それ以降は、次回クールでの審査となります。			
随時応募にするか、合否連絡をもう少し早くもらえないか	申し訳ありませんが、現在の審査システム上年 4 回の審査としております。今後見直しの際にはご連絡いたします。			

3-2 体験会のプログラム設計について	
最適な人数はあるか	<p>受験用の体験会は、ゲームの運営やプロセスを学ぶためのものであるためできるだけ5名グループで実施することが望ましいです。</p> <p>*グループワークのハンドリングの仕方やファシリテーターのコツをつかむためには、5人以上の奇数で運営が最適と考えます。</p> <p>下記、各人数での実施要綱となりますのでご参照ください。</p> <hr/> <p>①1回の実施で1グループのみ実施の場合は5名か7名を基本とする ②1グループ3名以下の実施は不可 ③1グループ4名の場合はファシリテーター自身がプレイヤーとなり5名で実施します。 ④1グループ6名はOK（3対3になる可能性はありますが、0対6、1対5、4対2と複数の選択肢があるため） ⑤1グループ8名の場合は5名と3名（ファシリテーターを含め4名）で実施するが、試験の観察対象は5名グループのみとしてください（3名グループは参考意見として扱うのは可）</p> <p>*4名の場合、4対0、2対2、3対1のいずれかで多数派経験が生まれないため</p> <p>⑥1グループ9名の場合は5名、4名（Fを含め5名とする）の2グループとしてください ⑦1グループ11名以上の場合は、複数グループとし、ファシリテーターが偶数のゲームに入り、必ず1グループは奇数人数になるよう調整してください。</p> <hr/> <p>1グループ5名以上の集客が難しい場合は以下のような工夫をしてください。</p> <p>① クロスロード・ダイバーシティゲームの修了生コミュニティで集客する。（オンラインであれば比較的参加しやすく、過去に集客につながった事例もございます）。 ② 家族や友人など身近な人の声をかける。 ③ 職場のメンバーなどに協力してもらう。</p> <p>体験会の実施の際は、3回のうち2回以上は、5名以上の参加者を集めて下さい。 2グループ以上の複数グループで実施するとより学びが大きくなります。</p>
参加者の多様性は必要か	<p>年齢や性別、役割、経験の有無など属性が多岐にわたる方が様々な視点が得られますが、価値観や考え方は多様なため、こだわらなくても構いません。</p> <p>ただし、同質性の高いメンバーの場合、答えが偏る傾向（全員イエス・ノーなど）があります。その際にはファシリテーターが事例を引用しながら、多様な意見について捕捉して下さい。</p>
体験会は3回以上してもよいか	<p>はい、最低3回の実践が必須です。3回以上実施した場合も、報告は3回分でお願いします。</p>
プログラム設計の時間配分はどのようにすればよいか	<p>報告書には必ず、プログラム設計の時間配分や進め方を記載して下さい</p> <p>90分の場合の参考例です</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク・クロスロード開発の背景・ルールの説明 15分 ・ゲーム 45分 （必ず練習問題（神戸編）1問以上、ダイバーシティ編3問以上実施して下さい） ・振り返り 30分 （個人ワーク5分、グループワーク15分、全体共有10分） <p>120分以上の場合は、各問の振り返り時間を長く取ること、振り返りの際に全体共有の時間を長くして下さい。</p>

3-3 体験会実施にあたって	
体験会開催の前にさらに学びたい	クオリア主催の体験会に参加可能です。オブザーブとなりますので、実践経験にはカウントされません。また、養成講座については、オブザーブ参加が可能です。 (割引制度がありますのでご相談下さい)
体験会を開催したいが、集客が難しい	体験会の募集にあたり、クオリアの Facebook など告知情報をシェアいたします。必要があればお知らせ下さい。
1人で体験会を開催するのは不安がある	養成講座修了生同士で体験会を企画運営することも可能です。ただし、実践報告として記載できるのは、メインファシリテーターのみとします。申請する方は、メンバーではなく必ずメインファシリテーターを務めて下さい。
2人以上で共同開催した場合、全員実践報告書作成は可能か	メインのファシリテーションをした人のみが実践対象者です。実践は、あくまでも自分が前に立ってワークを取り回すスキルとマインド、知識を身につけるために行うものです。メインファシリテーターを担当した方のみ報告書を作成できます。
会場費・印刷費などの徴収は可能か	体験会は、無料開催が原則ですが、会場費や資料代など、実費の徴収は可能です。
体験会を実施するにあたって使用するスライドの規定はあるか	体験会用に120分のPDFスライドデータをご用意しています。データを活用したい場合は、「データ申請書」に必要事項を記載の上、ご返送下さい。また、スライドを使用せずに、体験会を実施することも可能です。
オンラインの体験会実施は可能か	・ダイバーシティクロスローダー認定については、3回中2回までオンライン開催が可能です。ただし、少なくとも1回は対面で開催して下さい。 ・2023年6月末までの期間限定として、オンライン体験会のみを実施した方について「オンラインダイバーシティクロスローダー」を認定します。 オンラインダイバーシティを取得された方が、対面体験会を実施し報告書を提出すると、審査を経て「ダイバーシティクロスローダー」と認定されます。
体験会参加者アンケートは必須か	参加者へのアンケート実施は任意ですが、審査に加味しますので、出来るだけ実施頂くようお願いいたします。

3-4 実践報告書の記載において留意する点	
下記のポイントが審査項目となりますので、必要な要素を必ず記載するようにお願いします。	
(1)実践したこと／応募動機	<本気で取り組みたいという意思が伝わってきたか> クロスローダーに応募しようとした理由や動機、問題意識などをお書き下さい。ご自身の活動領域や分野はどのようなものでしょうか。ご自身の活動にどのように活かしたいですか。
(2)活用分野	<活用対象の分野や層など具体的なイメージを持っているか> 主にどのような分野で活用したいとお考えですか。具体的な対象や階層などイメージがあればお書き下さい。
(3)実施報告書	<企画・運営は適切であったか、目的、ゴール、参加者の特徴や時間数に合わせた適切なプログラム設計となっているか> 以下の点が必須項目ですので、記載漏れの内容をお願いします（実践報告書等） ■参加者の特徴 人数、性別、属性、傾向など ■実施の目的 どのような場面で行ったか、参加者にはどのように説明して集客したか。例：体験会として、〇〇研修の一部として、〇〇会のイベントの場で等)

	<ul style="list-style-type: none"> ■実施スケジュール 日時・場所・総時間 時間配分などを具体的に記入のこと ■プログラム設計のポイント 体験会の企画の際にどのような点に留意してプログラムを設計したか、学習内容や振り返りの時間をとっていたかなど ■実施状況報告：500文字以上（参加者のコメントや感想を掲載すること） <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの様子、参加者の意見やコメント、成果 ・ゲーム中の参加者の意見やコメント、疑問点をきちんと拾えているか ・特に参加者の変容（ゲーム中、終了後の振り返りから見えたこと）を記載すること ・参加者に D&I 推進に CRD が効果的であるということが伝わっているか ■実施者として学んだことの振り返り：400文字以上（感想だけでなくファシリテーターとしての学びや改善点を具体的に記入すること） <ul style="list-style-type: none"> ・ワークの成果を的確に把握し整理できているか ・CRD を進める上での留意点や効果的に行うために必要なポイントを理解しているか ・ファシリテーターとしての自分の強みや関わり方の良かった点、弱みや改善点、ワークを通して自分自身が学んだことを記載すること ■3回の実践を終えて、学んだこと、今後に活かしたいこと CRD を進める上での留意点や効果的に行うために必要なポイントを理解しているか、3回の実践での感想や学びを記載すること
(4)クロスノート・クロスチャート作成	<p>クロスノート・クロスチャート作成の際には、養成講座資料を読み込んで作成して下さい</p> <ul style="list-style-type: none"> ①クロスノート作成：問いの立て方は適切であったか <ul style="list-style-type: none"> ・100文字前後の短い文章になっているか ・Yes/No のジレンマ（悩みのポイント）が明確であるか ・Yes/No それぞれのメリット・デメリットは多面的に書かれているか ②クロスチャート作成：判断のポイントは適切か <ul style="list-style-type: none"> ・判断に影響を与える状況や基準は何か、が明確であること ③作成の背景・意図：テーマに関する情報やデータがあれば記載する <ul style="list-style-type: none"> ・作成の背景、実際に自分がどのように判断したか、などがあれば記載する
(5)ダイバーシティへの理解度	<p>ダイバーシティ&インクルージョンに対する基礎的な知識や理解、マインドがあるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体を通して、多様性を受容し活かそうというマインドが感じられるか。 ・ファシリテーターとしての自分の関わり方についての内省力があるか
(6)参加者アンケート	任意ですが、審査に加味しますので、出来るだけ実施頂くようお願いします。

3-5 審査について	
審査の採点はどのように行われるか	ダイバーシティクロスロード開発に関わった複数のファシリテーターによって審査します。各人が5点満点で評価し、総合点数により合否を確定します。
審査基準について知りたい	実践からどのような学びがあったかを重視します。特に以下の項目を重視しています。 ①対象や目的に合わせた適切なプログラムの設計・時間配分や場づくりなど ②ゲーム中の参加者の観察から気づいた点についての記述 ③ファシリテーターとしての自分の関わり方、強み・改善点についての記述 必要な項目がきちんとかけていることが一番のポイントです。
審査結果の詳しい内容を知りたい	現時点では、合否のみお伝えしています。審査員からのフィードバックやメッセージがあれば、合否連絡時に合わせて連絡いたします。
不合格の場合、再審査はどのようになるか	不合格の場合、2つの方法で再受験が可能です。 ①必要項目が不足している場合、必要項目を再度提出いただき、合格とします。 ②著しく基準に達していない場合、不合格項目と理由についてご連絡し、再度受験いただけます。（再受験料 11,000 円（税込）を申し受けます）

3-6 その他	
実施報告書にクロスロードダイバーシティゲームのみではないワークショップを記載できるか	3回のうち1回分はクロスロードダイバーシティゲーム「のみ」のワークショップの報告をお願いいたします。最近、アンコンシャス・バイアス×クロスロードダイバーシティゲームなど、クロスロードダイバーシティゲームのみでないワークショップを実施する機会も増えております。実施報告書に含んでいただくことは可能ですが、クロスロードダイバーシティゲームのみの回もご記載ください。